

## 挺身隊混同記事一覧

(DB=データベース上の断り書きは、2014年11月7日調査時点でのもの)  
 (投稿記事に見える混同、「挺身隊問題対策協議会」のような固有名詞は除いた。)

No.	年月日	記事タイトル (G)・内容の一部抜粋	DB上の断り書き	備考
1	1982.9.2 大阪本社版	<b>朝鮮の女性 私も連行 元動員指揮者が証言</b> 《朝鮮人慰安婦は皇軍慰問女子挺身隊という名で戦線に送り出しました。当時、われわれは「徴用」といわず「狩り出し」という言葉を使っていました。》	なし	朝日の慰安婦強制連行に関する吉田証言初報。
2	1983.12.24	<b>たった一人の謝罪 強制連行の吉田さん 韓国で「碑」除幕式</b> 《吉田さんは、…自分が指揮ただけで女子てい身隊員九百五十人を含め六千人を徴用した》 《メモ …「女子てい身隊」名目で前線に送られた慰安婦は五〜七万人にのぼるといわれる》	なし	執筆は清田治史記者。吉田が謝罪碑前で土下座する写真入り。
3	1984.11.2 夕刊	<b>「私は元従軍慰安婦」韓国婦人の生きた道 (海外喜怒哀楽)</b> 《この夜から、挺身隊員としての地獄の日々が始まった》 《挺身隊員が各地から来て、二百人ぐらいになった》	DB上のタイトル部分に「慰安婦と挺身隊の混同がありました」、記事末尾に「誤用しました」とあり。	執筆は松井やより編集委員。 DBの記事末尾の文章は、2014年8月5日付記事を引用したもの。
4	1988.8.18	<b>尹貞玉さん 朝鮮人従軍慰安婦の記録をしらべる (ひと)</b> 《ソウルで英文学を教える教授が、畑違いの、戦争中の朝鮮人従軍慰安婦調査に打ち込んでいる。「1943年、李下女子大1年のとき、学生全員が地下室で青い紙に指紋を押させられた。『女子挺身隊 (ていしんたい)』にでも引っぱられるのでは、と心配した両親は翌日、私を退学させました》 《「キーセン観光を私たちは『新挺身隊』と呼んでいます》	なし	執筆は松井やより編集委員
5	1989.2.23	<b>「侵略」めぐる竹下首相発言、外国の批判広がる</b> 《(朝鮮人女性を慰安婦として動員した) 挺身隊》	同上	執筆は波佐場清特派員
6	1991.3.17	<b>尹貞玉さんを囲む会 (情報クリップ)</b> 《挺身隊 (従軍慰安婦) 問題へのとりくみ》	なし	
7	1991.7.18	<b>朝鮮人従軍慰安婦に光を 日韓で女性団体、補償など要求</b> 《日中戦争から太平洋戦争のさなか、朝鮮の女性たちが「女子挺身 (ていしん) 隊」の名で日本軍の従軍慰安婦として各地の戦場に送られた》	なし	
8	1991.7.31	<b>朝鮮人従軍慰安婦問題、南北共同で補償要求 進歩で合意</b> 《「女子挺身隊 (ていしんたい) の名で戦場に送られた朝鮮人従軍慰安婦の実態》	DB上のタイトル部分に「慰安婦と挺身隊の混同がありました」、記事末尾に「誤用しました」とあり。	執筆は小田川興ソウル支局長。
9	1991.8.11 大阪本社版	<b>思い出すと今も涙 元朝鮮人従軍慰安婦を韓国の団体聞き取り</b> 《「女子挺身隊 (ていしんたい) の名で戦場に連行され、日本軍人相手に売春行為を強いられた「朝鮮人従軍慰安婦」》	同上	執筆は植村隆大阪本社社会部記者。
10	1991.8.15 夕刊 大阪本社版	<b>問う、日本の加害 忘れられた「過去」終戦8.15</b> 《元従軍慰安婦 (女子挺身隊) の女性》	同上	

11	1991.8.17 夕刊 大阪本社版	<b>慰安婦問題考える 在日の女性らが集い</b> 《女子挺身隊の名で戦場に駆り出された元従軍慰安婦たちは被害者にもかかわらず、身を恥じて戦後もずっと沈黙を守りつづけていた》	同上	
12	1991.9.3 大阪本社版	<b>女子工員「エギ」(手紙 女たちの太平洋戦争・韓国)</b> 《従軍慰安婦が「女子挺身勤労会」などの名前で集められたために、誤解を恐れ、語ろうとしない》	なし	執筆は川名紀美編集委員。
13	1991.9.16 大阪本社版	<b>教え子を女子挺身隊に(手紙 女たちの太平洋戦争・韓国)</b> 《この運動にすべてをかけていらっしゃる尹先生(尹貞玉・梨花女子大前教授)のお宅に伺った時、「挺身隊に応募した人のうち、少し年長の方は従軍慰安婦に送られたのよ」とお聞きして、びっくりしました》	なし	「女たちの太平洋戦争」に掲載された池田正枝の手記。池田は戦時中、教え子を挺身隊に送り出していた。
14	1991.10.10 大阪本社版	<b>従軍慰安婦 加害者側から再び証言(女たちの太平洋戦争)</b> 《私は1943年(昭和18年)、1944年(同19年)従軍慰安婦を連行しましたが、「皇軍慰問朝鮮人女子挺身隊(ていしんたい) 動員に関する件」という軍命令がくるわけです》	DB上のタイトル部分に「挺身隊と慰安婦の混同」の断りはないが、記事末尾に「誤用しました」と断りあり。	執筆は井上裕雅編集委員。
15	1991.12.5	<b>韓国女性から体験聞く 奈良で従軍慰安婦考える集い</b> 《韓国挺身(ていしん) 隊問題対策協議会の金恵媛(キム・ヘウオン)さんが、韓国国内での「女子挺身隊」、いわゆる従軍慰安婦問題についての現状を報告する》	なし	
16	1991.12.10	<b>従軍慰安婦(ことば)</b> 《第2次大戦の直前から「女子挺身隊(ていしんたい)」などの名で前線に動員され、慰安所で日本軍人相手に売春させられた女性たちの俗称。公式の調査はないが、10万人とも20万人ともいわれている》	DB上のタイトル部分に「慰安婦と挺身隊の混同がありました」、記事末尾に「誤用しました」とあり。	
17	1991.12.30	<b>朝鮮人慰安婦のこと学びたい 資料集に入手希望次々と</b> 《戦時下、「挺身隊(ていしんたい)」などの名目で数十万人の朝鮮人女性が強制連行され、うち8万余人が「従軍慰安婦」として働かされた事実が明らかになつてくる》	同上	
18	1992.1.4	<b>いま問われる戦後補償 アジアから提訴相次ぐ</b> 《太平洋戦争に入ると、主として朝鮮人女性を「挺身隊(ていしんたい)」の名目で勧誘または強制連行し、兵士たちの性の相手をさせた。その推定人数は8万人から20万人》	同上	
19	1992.1.11	<b>従軍慰安婦&lt;用語&gt;</b> 《太平洋戦争に入ると、主として朝鮮人女性を挺身隊(ていしんたい)の名で強制連行した。その人数は8万人とも20万ともいわれる》	同上	
20	1992.1.12	<b>歴史から目をそむけまい(社説)</b> 《「挺身隊(ていしんたい)」の名で勧誘または強制連行され、中国からアジア、太平洋の各地で兵士などの相手をさせられたといわれる朝鮮人慰安婦》	同上	
21	1992.1.15	<b>「戦中の勤労奉仕隊に11歳の少女も動員」韓国各紙、非難の報道</b> 《韓国では16日からの宮沢首相訪韓を控えて、「挺身隊」の名目で犠牲になった元従軍慰安婦らへの補償を求め声が強まっている》	同上	執筆は小田川興ソウル支局長。

22	1992.1.17	<b>日韓首脳共同会見＜要旨＞【質疑応答】</b> 《太平洋戦争中の挺身隊（ていしんたい）（従軍慰安婦）の問題について、首相は16日の演説でおわびしたが》 《宮沢首相 挺身隊については関係者の話を聞くだけで胸の詰まる思いがする》	なし	執筆は土屋弘記者。
23	1992.1.19	<b>児童の動員を韓国が調査 2000校の挺身隊 従軍慰安婦問題</b> 《連合通信によると、韓国教育省は18日、太平洋戦争中の従軍慰安婦など挺身（ていしん）隊に強制動員された実態をつかむため、…全国2000校の国民学校（小学校）を対象に初めて、当時の学籍簿などをもとに動員に関する実態調査を始めた》	DB上のタイトル部分に「慰安婦と挺身隊の混同がありました」、記事末尾に「誤用しました」とあり。	執筆は小田川興ソウル支局長。
24	1992.1.22	<b>日本の教科書は歴史「歪曲」と批判 韓国教育相、是正を強く求める</b> 《尹教育相は、挺身隊について、日本の教科書は挺身隊が軍需工場だけに動員されたように歪曲されていると指摘した》	なし	執筆は小田川興ソウル支局長。
25	1992.1.27 西部本社版	<b>体験談をじかに 福岡の団体が元従軍慰安婦を招待へ</b> 《第2次大戦中に「女子挺身隊（ていしんたい）」の名で戦場へ送られ、日本兵相手に売春を強いられた韓国女性がこの3月、福岡、下関を訪れ、当時の体験を証言する》	DB上のタイトル部分に「慰安婦と挺身隊の混同がありました」、記事末尾に「誤用しました」とあり。	
26	1992.2.1	<b>「慰安婦」でスクラム？ 韓国の記者団が北側会見に初出席 日朝交渉</b> 《一問一答ではKBSの記者が真っ先に質問。「挺身隊（ていしんたい）＝従軍慰安婦」問題で、南北がいっしょに日本政府に対応していく考えはないか」と尋ねた》	同上	
27	1992.2.10 夕刊	<b>おばあさんたちは、宮沢首相を待った 韓国・慶州ナザレ園（こころ）</b> 《挺身隊（慰安婦）問題》	同上	執筆は小飯塚一也記者。
28	1992.7.1	<b>100人以上が申告 韓国政府の従軍慰安婦聞き取り調査</b> 《同調査は2月25日から4ヶ月間にわたり、地方自治体を通じて「1938年以降、日本軍の慰安婦として利用するために誘拐・拉致されたり、工場女工、女子愛国奉仕団、女子挺身隊（ていしんたい）などの名目で召集された被害者」を対象に本人、華族、親類からの申告を受け付けたもの》	なし	
29	1992.7.31 夕刊	<b>日本の責任ある対策促す 慰安婦問題で韓国の調査発表＜解説＞</b> 《報告書は…「反文明的な行為を糊塗するために『挺身隊（ていしんたい）』という名称を使った可能性がある」と述べた》	なし	執筆は小田川興ソウル支局長。
30	1992.9.13	<b>朝鮮人女性がみた「慰安婦問題」尹貞玉ほか著（新刊抄録）</b> 《著者たちは、北海道、沖縄、タイ、パプアニューギニアまで足を延ばし、「挺身隊」として戦地に無理やり送り込まれた女性らの足跡を追う》	なし	

31	1995.5.31	<p>従軍慰安婦示唆する記述、検定後に消える 小学6年生の社会科教科書</p> <p>《ある出版社の申請本は、第二次大戦中の朝鮮半島の状況について「若い女性も、挺身隊などという名目で、戦地に送り出しました」と従軍慰安婦の存在を示唆していた》</p>	なし	
32	1995.12.7	<p>元従軍慰安婦の「今」、韓国女性が撮影 記録映画「ナムムの家」</p> <p>《「挺身(ていしん)隊」の名で「慰安婦」に駆り出された人々の老後が描かれる》</p>	なし	
33	1997.2.28 香川版	<p>都会の若者に見せ意見を聞きたい 劇団まぐだれーな大阪で公演 香川</p> <p>《その慰安所では、年端もいかない朝鮮人が、女子挺身隊に、とだまされて慰安所に連れてこられる》</p>	なし	